

Step 1

筆者の論理の展開を確認しよう。

イースター島がたどった運命

五世紀頃

ポリネシア人がやってきたため人口が増える。

七世紀頃

ヤシが減り、代わりにイネやタデが栽培される。

十一世紀頃

モアイの製造がはじまる。

十六世紀頃

人口が一万五千から二万に達する。

モアイの運搬や人間の生活のために木が伐採され、森が消滅する。

考え

地球の未来も危うい。

理由付け

現在の地球も、イースター島と同じく、人口爆発状態で、かつ外から資源を持ち込めない状況である。

事例

孤島イースター島の文明は、人口増加で資源を消費しつくして崩壊した。

Step 2

筆者の意見や論証にはどのように反論できるだろうか。考えて書いてみよう。

イースター島文明の崩壊に最も影響を及ぼしたのは森の消滅なのだろうか。また、森の消滅に他の要因があると考えられないだろうか。
ステップ1もふまえて、さまざまな目線から考えてみよう。

(例1) 筆者は森の消滅や飢饉に注視するあまり、部族間の抗争について触れていない。抗争の結果、人類が消滅したとも考えられる。
(例2) 人口は十一世紀から十六世紀まで増加し続けていた。森の減少が文明崩壊につながるのであれば、人口も同時に減っていなければならないはずである。